

利根商 図書館だより

読書案内

校長 大嶋 伊佐雄

現在、子どもの読書率が低下していると言われています。それは、テレビ、ビデオ、インターネットなどの様々な情報メディアの発達、普及や子どもの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成などが原因といわれています。

全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況についてであります。全国学校図書協会の「第59回読書調査」(全国学校図書協会の「第59回読書調査」)によると、読書率は、2013年5月の1か月間に読んだ本(教科書、参考書、マンガ、雑誌等を除く)の平均冊数は、小学生が10・1冊(前年比マイナス0・4冊)、中学生が4・1冊(前年比マイナス0・1冊)とわずかに減少しました。一方、高校生の平均冊数は1・7冊(前年比プラス0・1冊)でした。高校生が増加傾向になっている一因として、本校でも国語の授業で実施している「10分間読書」や学校によっては自

分が好きな本を持参し「朝読書」を実施していることも影響しているといわれています。

一方、1か月間で1冊も本を読まなかった子どもの割合を示す「不読率」は、小学生が5・3%、中学生が16・9%、高校生が45・0%と、上級学校に進むにつれて、読書をしなくなるという実態が浮かび上がってきています。男女別に見ると、昨年に引き続き、いずれの学年も男子の不読者が多い結果でした。

また、学校図書館の利用については、「よく行く」「ときどき行く」と答えた小学生が71%であったのに対して、中学生は40%、高校生は21%と、学年が上がるにつれて利用頻度の減少傾向が見られます。就学前の家族による読み聞かせについて、「よく読んでもらった」と答えた小学生は49%、中学生は36%、高校生は39%であり、読み聞かせと不読率との関係では、家族に本を「よく

読んでもらった」と答えた子の不読率が、「ときどき読んでもらった」「あまり読んでもらわなかった」「まったく読んでもらわなかった」と答えた子と比べて、小・中・高とも低い結果でした。

本校にも蔵書量が多い図書室があります。その上、司書の先生が読書についての指導・助言もしてくれま

まず楽しく読もうという人もあり、体力のある若いときにこそ大長編小説を読もうという人もいます。「17歳から21歳までのあいだに、小説の面白さをたっぷり味わわなければならない。ものごとには旬というものがあり、これを逃がすととりかえしのつかないことになってしまう。感受性のみずみずしいこの歳ごろに小説を読み、その毒にあたらないでしまおうと、文学に無縁な人間ができない」と書いている人もいます。

書店で本を買って読むこともできません。その気があればいつでも読書ができる環境にあります。読書の喜びを肌で感じることで、また、感性を磨き、表現力を高め、漢字力など目に見えない多くのものを身につけることもできます。

多くの方々が共通して語っているのは、読書の効用ではなく「魅力」です。ためになることだけが読書の素晴らしさではなく、書名通り17歳の時に自分の感性と合った書物を手にするきっかけをつかみ、読書の世界に踏み込んでいけることが幸せなのです。

読書率の低下について考えていた時、『17歳のための読書案内』(筑摩書房編集部編)を読む機会がありました。作家、研究者、評論家など各界で活躍する51人が読者に向けて「読書は出会いである。どんな本と出会えば、21世紀に希望がもてるだろうか。創造力と想像力が豊かになる、楽しい読書案内」という内容で紹介する短い文章が掲げられています。

さあ、早速図書室に行つて、面白いような本を手に取り、「よし、これだ」と思ったら借りてください。そして早速、幸せな読書を開始してください。

具体的なお本をあげる人も多いのですが、特定の書物を紹介していない方々が何人もいます。若い人には乱読をすすめ、「手当たり次第、やぎが紙を食べるように、本を食べてほしいのだ」と呼びかける人もいます。



年間多読者

私と読書

三年三組 小池 勇希

昨年に続き年間多読者賞をいただきました。昨年は、もらった時驚きました。今年もそうでもありませんでした。今となっては、私にとって本を読むという事は日課となっており、楽しみになっています。

知識を広げるだけでなく、ヒマな時間をつぶしたり、子どもを寝かしつけたりする時にも本は読まれます。本を読むという機会は多くあります。私の場合はその機会を自ら取り入れ、本を読む回数を増やしているだけです。

本の種類は教科書やファッション雑誌、ミステリー小説など、数多くあります。私は数あるジャンルからライトノベルの本を愛読しています。アニメ等を小説化したものもあり、内容がとてもおもしろいです。その他にも詩、詞(ことば)などを集めた本なども読みました。本から得られる知識は多く自分のためにもなるので、これからも読書を続けていきます。

皆さんも、まずは興味のあるところから本を読んでみてはいかがでしょうか。

メディア化された作品

二年五組 金子 雅樹

本の紹介を書くこうと思った時、メディア化された作品は避けようと思っていました。理由は、そのメディアを見ていけば、原作を読んでもいなくても、内容が分かってしまうからです。しかし、僕が本を読み始めたきっかけがメディア化された作品だったことを思うと、本を読まない人には、メディア化された作品を読んでもらうのが、一番のきっかけになるだろうと思います。

最初に紹介するのは、「半沢直樹シリーズ」(池井戸潤)です。原作では、半沢と大和田の関係が大分違って、それに伴い、言い回しも変わっていたりします。また、第二作『オレたち花のバブル組』のラストに奥さんがとても怖いことを言うので、ぜひ読んで欲しいです。

次に、『螺鈿(らでん) 迷宮』(海堂尊)です。これはバチスタシリーズの外伝的なストーリーで、主人公も天馬大吉になっています。ドラマとの違いを楽しんで欲しいです。二つとも、図書室にあるので、興味のある人は、ぜひ読んでください。



おすすめの一冊

一年四組 森下 真優

私が読んだ本で、一番記憶に残っているのは『レネット 金色の林檎』(名木田恵子)という本です。

この本を最初に読んだのは、中学三年の夏休みでした。その時に、読書感想文も書きました。何年前の中学生の課題図書にもなっています。

一九八六年ロシアで起きたチェルノブイリ原発事故の前日に北海道で生まれた主人公海歌と、チェルノブイリ原発事故で被災しながらも明るさを失わないセリョージャと、不器用な家族の哀しみを、北海道の海と大地が受け止めて、やがて家族の絆が変わっていくというお話です。

どれだけ主人公が傷ついているのかが読んでいて、すごく伝わってきました。

とても悲しい話ですが、今回、もう一度読んでみて、改めてとてもいい話だと思いました。みなさんも、ぜひ一度読んでみてください。

北毛地区図書委員

研修会に参加して
一年四組 志田 かなえ

七月三十一日に渋川女子高等学校で、第四十一回北毛地区図書委員研修会が開催されました。これは、北毛地区の高校が集まり、テーマに沿って交流を行うことを目的としたものです。私は、本校代表として初めて参加しました。

今回の研修テーマは「ストーリー・ウィズ・ミュージック」で、課題の本として『彼女のARIA』(森絵都)が渡されました。一冊の本を通して、他校との交流ができ、多くの意見や考えに触れることができました。そして、本を深くまで読み込むことで、色々な視点で内容を読み取ることができて楽しかったです。

本には、沢山のジャンルがあります。その中には、きつと読んでみたいと思う本があると思います。そんな本との出会いのきっかけが、今回の研修会だと私は思います。多くの本を読んで、新しい世界をこれからも見つけていきたいと思います。



多読者ベスト5

(4月~12月)

3年	小池 勇希	148冊
2年	金子 雅樹	132冊
3年	岡村 周	84冊
3年	宮田 直人	62冊
3年	飯塚 志成	61冊

図書委員長を務めて

この一年間、図書委員長という大きな役職を任されることになって、いろいろなことを学ぶことができた。前に立って、皆に説明する際、どのようなことをどのように伝えれば分かりやすく関心を持ってもらえるのかを意識することの大切さや、本を読む人がどんな心情で読み、どんな感想を持ち、その本から学べるのかなど知りました。この図書委員に限らずとも、自分に任された仕事を最後までやり遂げることは当たり前のことですが大切だと感じました。

三年四組 田村 誉

図書委員のつゆさき

一年間図書委員をやって、まず楽しかったです。図書室は、自分が一番落ちつく場所だと思っています。よかったら、来てみてください。

三年二組 宮田 直人

一年間図書委員の仕事をして、普段図書室に行かないので、委員会を通して図書室に行く機会ができて、読書会などの機会もあり、とても楽しかったです。

三年二組 高橋 亜佑里

私は一年間、図書委員の仕事をして、あまり仕事ができなかったことを反省しています。次は、しっかりと仕事ができるようにしていきたいです。

二年四組 武淵 拓也

読書を毎日少しずつでもすることは、とてもいい事だと思います。内容はどんなものであっても幅広い知識が身につくし、読解力も身につく頭を使って考える力もつくからです。

二年四組 茂木 旭昇

あまり読書をしないので、図書委員の仕事を通じて本に触れる機会があつてよかつたと思います。来年度も図書委員になりたいです。

二年四組 角田 麻衣

一年間、図書委員の仕事をして、図書室に来る人が決まっている感じがしました。

借りないで立ち読みするだけでもよいと思うので、皆さん、ぜひ訪れてみてください。

一年五組 西河 拓哉

私は一年間、図書委員の仕事をして、本を読む大切さや本のすばらしさを学ぶことができました。だから、これからも様々な種類の本を沢山読みたいと思います。

一年五組 宮野 亜実

平成26年度 第50回 **校内読書感想文コンクール**

最優秀賞

『働く、ということ』を読んで

3年5組 飯塚 新也

優秀賞

『ちいさなちいさな王様』が読めたこと

2年5組 宇根 帆南



飯塚 新也 宇根 帆南

佳作

『思い出のとき修理します』を読んで

3年4組 飯塚 望美

入選

『甲子園だけが甲子園ではない』

を読んで

1年1組 山田 桃華

『犬から聞いた素敵な話』を読んで

1年2組 内田 蛍

『君と一緒に生きよう』を読んで

1年3組 蟬山 加奈子

『レインツリーの国』を読んで

1年4組 中村 さやか

病気の辛さ

1年5組 田村 千栄

『ハッピーバースデー』を読んで

2年1組 竹本 明日香

『ボックス』を読んで

2年2組 星野 竜槻

『日本全国で本当にあった泣ける

青春物語21』を読んで

2年3組 青木 めぐみ

『鏡の法則』を読んで

2年4組 東 塔也

『グラウンドの空』を読んで

3年1組 堀江 亜祐

『負けない自分になるための32の

リーダーの習慣』を読んで

3年2組 林 育美

『おばけ桃が行く』を読んで

3年3組 田村 ひかる

小講演会に参加して

三年五組 高橋 敦也
一月一六日木曜日、講師は、高橋泰誌先生であった。

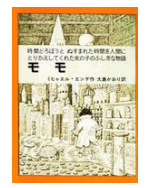
先生は、愛媛県新居浜市出身で、パン屋の四人兄弟の末っ子に生まれ、洋服は兄弟のお下がりが多かった。子供の頃は、新しい服が欲しかったため、勉強もせず身長を伸ばすことに励んだそうだ。

中学生になり、兄がテニス部で活躍していて、比較されるのが嫌だったため、身長も高かった先生は野球部に入部した。中学、高校では主将を務め、教師となり高校で野球監督をしたため、駒澤大学に進学した。大学卒業後は、念願の高校野球の監督になり、指導を続けてこられた。現役時代は野球に打ち込みすぎたせいで故障してしまい、好きな野球をすることが出来ない辛い時期もあったが、くじけずに乗り越えた。これまで歩まれた道は険しいが、諦めず最後までやり遂げ、すごいと思っ

た。私も先生みたいに、最後まで諦めない強い心を持って、これから命歩んでいき



図書館の先生方から本の紹介



小嵐 早矢香

畑山 賢一



『峠』

司馬遼太郎
幕末。一介の武士から長岡藩の筆頭家老に抜擢。維新史上最も壮絶な「北越戦争」を展開。武士河井継之助の生涯。



安原 淳和

『池上彰のお金の学校』

池上彰

そもそも、お金とは何でしょう？
う？金利とは？株とは？保険とは？GDPとは？わかっていないようでわかっていない、お金のしくみを徹底解説。



山宮 友和

『モモ』

エンデ・ミヒヤエル
時間におわれ、おちつきを失って人間本来の生き方を忘れてしまった現代の人々。ふしぎな少女モモは、時間をとりもどしに「時間の国」へ行く。

『普通の子たちが日本になった!』

佐藤 久夫

なぜ、普通の子たちが日本一になったのか！あの驚異の粘りはどこから生まれるのか！バスケットボール理論に迫り、『心』の指導に力を注ぐ

読書

丸山 真弘

「幸福とは何か」これは、私が読んだ『7日間で突然頭がよくなる本』の中にある質問である。

混沌とした時代を生き残るためには、知恵(頭のよさ)が求められる。「頭がよい」ということは「物事の本質をつかめる」ということ。自分の頭で考え、表現できる賢さのことを指している。そして、哲学は「物事の本質をつかむ」方法を提供してくれる最適の学問だと説明されている。皆さんは幸福の本質をどう捉え、自分の考えた言葉で表現できたでしょうか。

歴史に残る偉大な哲学者たちは、この世界が何からできているのか、自分とは一体何なのかという問いを、自分の頭で一から考えた。それに比べて私たちはどうだろうか。自分自身でとことん考え抜いた経験が、一体何回あるだろうか。

私は、ソフトテニス競技の指導者をしている。選手たちには、その場の感覚や勘でプレーを決めるのではなく、また、ただ無心で練習するのではなく、考えることによって、強くなってもらいたいと考えている。部活動に励んでいる者は、練習の意味や必要性、成功するための工夫、勝つための戦略を日々考えているだろうか。

何事もよく考える癖をつけると、物事がうまくいったり、生活しやすくなったりするものだ。ただ暗記するより、背景を考え学んだほうが、勉強ははかどりと理解もできる。よく考えることで、友達の言った何気ない一言に、キレるということもないだろう。

「なぜなのか」「どうしたらうまくいくか」様々な事について落ち着いてじっくり考えてほしい。考えても答えが出ないこともあるだろう。間違った答えかもしれない。しかし、物事に対して自分でじっくり考える癖が身につけば、必ず賢い人間になれる。そして、それは、色々な場面で自分自身を助けるはずだ。

『7日間で突然頭がよくなる本』には、頭がよくなるヒントがある。「幸福とは何か。」「自分自身で、じっくり何度も考えて答えを出してみよう。またどんな本でも気軽に手にとってみてほしい。最後まで読めなくても良い。たった一行でも心に残るものがあり、そこから考えるヒントをもらったら、それは必ず君たちの財産になるのだから。」